

『歌舞伎』と聞いて、解らないもの、難しいもの、私たちには全く関係ないものと思っ
ていませんか？実は、深く関係しております。

私は、昭和 39 年小牧で生まれました。当時同居していた祖母は、幼少期の私を連れてよく御園
座へ出かけ、それが歌舞伎との出会いとなりました。

米野小学校、応時中学校、小牧高校を卒業、愛大豊橋校舎に入学、ワンダーフォーゲル部に所
属し、卒業後は株式会社御園座に入社しました。

今から 30 年前の御園座は、まだ企業の慰安会、招待会、郵便局の簡易保険の観劇会など団体 7
割、個人 3 割の時代で、劇場は御園座、中日劇場、名鉄ホールの 3 劇場が、それぞれの劇場の構
造に合わせた個性あふれるラインナップの興行をしていました。

御園座は、年二回の松竹新喜劇、年一回(10 月の吉例顔見世)歌舞伎、東宝俵による森繁久弥
さん、十朱幸代さんによる文芸作品などの制作会社からの買興行と、五木ひろしさん、杉良太郎
さん、里見浩太朗さんなど御園座制作による 2 本柱の公演でした。

私は、入社してすぐ営業課に配属、セールスをするにあたり、商品知識として日本の伝統芸能で
ある歌舞伎を勉強することにしました。

毎月東京・歌舞伎座に通いました。そのころから演劇界も変化の兆しがあり、劇団四季による
ミュージカルのロングラン公演、名古屋の劇場にもミュージカル上演の話が。

私もミュージカルの本場ブロードウェイ、そして翌年にはロンドン・パリに劇場研修に行きま
した。私は同窓会文化委員会にも所属していましたので、文化委員会行事としての中国旅行にも
参加し、万里の長城、明の十三陵、三峡下り、上海交通大学、南開大学に行くことが出来ました。

海外から日本をみるという経験は、伝統芸能である歌舞伎の良さを再発見する事になりました。
御園座での配属も営業部から制作部になり、公演の立案、俳優の受け入れ、稽古の立会い、舞台
の仕込みなど、裏方の仕事をする事になり、歌舞伎をはじめ、舞台についての専門的な知識を
得ることになりました。

郵政民営化によって、簡易保険の観劇団体がなくなることになり、演劇界も大きく変化してい
きました。簡易保険依存していた劇場は経営危機に陥り、名鉄ホールが閉館。御園座も経営危機
になり、私は御園座を去る決意をすると同時に、改めて『歌舞伎の学校』を立ち上げる決意をし
ました。

『歌舞伎の学校』では、御園座で身に着けた歌舞伎の知識をもとに、歌舞伎を通して、また、
歌舞伎を学ぶことによって、日本文化に興味を持ってもらうことを主体に活動しています。
愛大では、教職センターや青年経済倶楽部で歌舞伎講座及び、歌舞伎の化粧体験をさせて頂いてます。

教職センター歌舞伎入門講座

青年経済倶楽部・歌舞伎講座

筆者が校長を務める「歌舞伎の学校」





KABUKI
NO 歌舞伎の学校
GAKKOU
LECTURES THE JAPANESE TRADITIONAL ART

歌舞伎の学校は、歌舞伎を通して、
日本文化の普及を目的として活動しています。

<http://kabukinogakkou.jp>

